

第五十一回

# 岡山後楽能



2021年  
11月3日(水・祝)

岡山  
後楽園  
能舞台

令和三年十一月三日（水・祝）

十二時三〇分開演

岡山後楽園能舞台

解説

観世喜正

仕舞 藤戸

林宗一郎

仕舞 野宮

馬野正基

地謡

奥川恒成  
弘田裕一  
長山耕三

仕舞 善界

桑田貴志

狂言 狐塚

小唄入

太郎冠者 島田洋海

次郎冠者 茂山千之丞

主人 田賀屋夙生

後見 増田浩紀

十四時頃

休憩

天人 観世喜正

漁夫 有松遼一

能 羽衣

漁夫白龍

岡充

漁夫 原陸

大鼓 守家由訓

太鼓 梶谷義男

小鼓 横山幸彦

笛 八木原周平

後見

桑田貴志  
弘田裕一

地謡

奥川恒成  
林宗一郎  
馬野正基  
長山耕三

■曲目解説

□狂言「狐塚(きつねづか)」

主人に田の群鳥を追うように言い付けられた召使いの太郎冠者と次郎冠者。鳴子を持ち狐が出るという狐塚の田へ行き、鳴子を振り鳴らし鳥を追っている内に日が暮れる。仮小屋の庵に入り番をしていると、主人が酒を持ち様子を見に来る。二人は主人を化けた狐だと信じて疑わない。酒を振舞おうとする主人に対して両人が取る行動とは…。「小唄入」の小書が付くと、小歌を謡いながら鳴子を振り鳥を追う、より情緒的な演出が加わる。

□能「羽衣(はごろも)」

駿河国三保の松原。富士山を望む浜辺の松に輝きと芳香を放つ衣が掛かっている。漁師・白龍が衣を手にとると、月世界に住む天人(天女)が現れる。それは天の羽衣で、その衣無しには天上へ帰ることが出来ないゆえ返して欲しいと頼む。嘆き悲しむ天人の姿に心打たれた白龍は、天上界の舞楽を見せてくれることを条件に羽衣を返すことにする。喜んだ天人は舞を舞い、富士を越えて天高く舞い上って行く。羽衣伝説を元にした能を代表する美しい演目。

- 入場時はマスクをご着用ください。会場入口に消毒液を用意しておりますので、手指の消毒にご協力ください。
- お客様名簿作成のため、チケット裏面にお名前、ご連絡先をご記入いただきます。
- 未就学児の観覧はご遠慮ください。

鑑賞料 (全席自由席)	
前売券 (後楽園入園券付)	4,000円
当日券 ※当日券は能舞台での販売します。 後楽園入園券は別途お買い求めください。	

チケット販売窓口
岡山後楽園 TEL.086-272-1148 <a href="https://okayama-korakuen.jp">https://okayama-korakuen.jp</a>